

事業報告

2020年4月1日より2021年3月31日までの事業概略をご報告します。

当協会の概況

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大という厳しい環境にありましたが、さまざまに工夫を凝らし、当協会の主な事業である育英事業、展覧会事業、パブリックアートの普及事業、国際交流事業などを推進して参りました。育英事業の一つである「国際瀧富士美術賞」は授賞式を中止し、代わりに少人数の受賞学生、指導教員による記念座談会を実施。その内容をホームページで発信しました。また同美術賞の40周年記念誌を発行しました。パブリックアート普及事業においては、青森空港のステンドグラス作品など5作品が設置され、この49年間に全国に設置したパブリックアートは計548作品となりました。

本年度の活動内容を項目ごとにご説明します。

I. 公益事業

1. 育英事業

(1) 瀧富士基金

日本の将来を担う若者を育てるための「瀧富士基金」第54期奨学生を募集しました。8月25日の選考委員会での厳正な審査の結果、28人の奨学生が新たに決まりました。また奨学生のうち特に成績優秀な学生の中から、奨学金の全額、または一部の返還を免除する給費生9人を選びました。このほか奨学金を増額する特待生には10人が選ばれました。基金創設以来の受給者は1900人を超え、貸与総額は21億8000万円となりました。

(2) 国際瀧富士美術賞

41年目に入った「国際瀧富士美術賞」の第一次審査は7月30日に、第二次審査は10月5日に開かれ、厳正な審査の結果、国内11美大13人、海外6カ国7美大7人の計20人の受賞者を選びました。国内最優秀者のグランプリには武蔵野美術大学の小林このみさん、海外最優秀者の国際グランプリにはパリ国立高等美術学校のイマン・シャビガラさんが受賞し

ました。恒例の授賞式はコロナ感染予防のため中止し、代わりに11月19日に記念座談会を開きました。グランプリの小林さんを含む関東の受賞学生と指導教員の計5人が出席し、受賞作品を説明しながらコロナ禍の中での制作の難しさ、発見等について活発に意見交換しました。また9月10日に「国際瀧富士美術賞40年 世界に挑むアーティスト発掘の歩み」を発行し、11月19日夜に帝国ホテルで受賞者OBを含む関係者十数人を招いて「出版記念交流会」を催しました。上記の座談会に出席した今年度の受賞学生と指導教員も合流し、貴重な交流の場となりました。

2. 展覧会事業

(1) 交通総合文化展

第67回となる「交通総合文化展2020」を「鉄道の日」(10月14日)の関連事業として、10月21日(水)から26日(月)までの6日間、JR上野駅の中央改札口外コンコースの特設会場で開催しました。

本年度も写真(新日本観光写真)と俳句の2部門を全国公募し、コロナ禍にもかかわらず、いずれも昨年を大幅に上回る、写真約1000点、俳句約5700点の応募がありました。この中から選ばれた写真34点、俳句16点を会場で展示しました。また現代日本を代表する日本画、洋画、書の作家グループ「溯瀧会」による新作25点を展示し、招待作家のコーナーでは国際瀧富士美術賞の第29期受賞者の大小島真木さんに陶板を使った作品を造っていただきました。このほか「パブリックアート普及活動特別展」では協会がかかわったパブリックアートを紹介したほか、5月に滝理事長が政府幹部に提出した「日本の文化政策の抜本的な振興のための提言」をパネルにして展示しました。会場のコロナ感染予防も徹底しましたが、展覧会などに行く機会が減っていることもあってか、会場は例年以上に盛況で、アンケート調査にも多くの方が積極的に応じてくださり、高評価をいただきました。

(2) 「原宿ファッションジョイボード文化展」

JR原宿駅の大型看板12面を使った「原宿ファッションジョイボード文化展」では、「ITを守る、育てる、“頼れるIT社会”の実現を目指して」キャンペーンを前年度に引き続き開催しました。

3. パブリックアート普及・振興事業

(1) パブリックアートの設置

当協会は長年にわたってパブリックアート作品の制作、並びに普及活動を行ってきましたが、本年度は一般財団法人日本宝くじ協会の社会貢献広報事業の一環で、1カ所のパブリックアートの設置に当協会がかかわりました。またこれ以外にも東工大の「Hisao & Hiroko Taki Plaza」に設置された大友克洋先生の陶板レリーフ作品など多数のパブリックアートにかかわりました。これでこの49年間に設置したパブリックアート作品は計548点となりました。

宝くじ協会の助成を受けた作品は以下です。

- ① ステンドグラス「青の森へ」
設置場所：青森空港旅客ターミナルビル1階ロビー
作家：森本千絵
公開日：2021年2月24日
寄贈先：青森空港ビル株式会社

その他の作品は以下です。

- ② 陶板レリーフ「みんな友だち」
設置場所：地下鉄銀座線青山一丁目駅
作家：野見山暁治
公開日：2020年10月16日
- ③ ステンドグラス「躍動の杜」
設置場所：地下鉄銀座線外苑前駅
作家：山下良平
公開日：2020年10月16日
- ④ 陶板レリーフ「ELEMENTS OF FUTURE」
設置場所：東工大大岡山キャンパス「Hisao & Hiroko Taki Plaza」
作家：大友克洋
公開日：2020年12月12日
寄贈先：東京工業大学
- ⑤ デジタルアート「COLORS OVER SCRAMBLE」
設置場所：渋谷スクランブルスクエア

作家：大友克洋

公開日：2021年4月1日

漏水により腐食した以下の作品を修復・再設置しました。

「金波、銀波～Gold and Silver Waves～」

設置場所：横浜みなとみらい線馬車道駅地下コンコース

作家：澄川喜一

公開日：2020年12月16日

(2) パブリックアート普及のためのPR・広報活動

① 上野駅での交通総合文化展を利用してパブリックアート普及活動特別展を開催し、パブリックアートの意義と役割を知ってもらうとともに、その普及、振興に努めました。

② 国際瀧富士美術賞の第29期受賞者の大小島真木さんに、上野駅での交通総合文化展の展示のため、「クレーレ熱海ゆがわら工房」に滞在していただき陶板を造っていただきました。

③ パブリックアートのコンセプトブックを制作しました。

④ 「beyond 2020 プログラム」の認証獲得

当協会が設置したパブリックアート作品について、2020年度はステンドグラス作品「青の森へ」、ステンドグラス作品「躍動の杜」、陶板レリーフ作品「みんな友だち」の3件の認証申請を行い、認められました。

(3) 「1%フォー・アート」法制化の実現に向けた活動

コロナ感染問題で苦しい環境に置かれたアーティストを念頭に、文化政策の抜本的な振興のための提言「コロナ禍のいまこそ『1%フォー・アート』の実現を」をまとめ、滝理事長から政府幹部に手渡されました。なお「1%フォー・アート」は公共建設費の1%を、その施設に関連・付随する芸術・アートのために支出する制度で、欧米などで取り入れられています。

(4) パブリックアートの普及、「1%フォー・アート」の提唱を含む文化芸

術活動への貢献で、当協会の滝理事長が10月27日、文化功労者に選ばれました。

4. 出版・発行・PR活動

- (1)「国際瀧富士美術賞40年 世界に挑むアーティスト発掘の歩み」を9月10日に発行しました。1980年に設立された同美術賞の歩みを振り返り、アーティストとして内外の第一線で活躍されている16人の受賞者OBのロングインタビューなどを掲載しました。
- (2)「くれあーれにゅーす」第14号を10月1日に発行しました。この号では国際瀧富士美術賞の40周年を特集しました。
- (3) 協会の各事業の広報活動を強化し、新聞、美術雑誌、文化関係サイトなどで数多く報じられました。
- (4) 協会のホームページの改善の一環で、英文サイトの充実、「1%フォー・アート」ページの新設などを図りました。またセキュリティ対策を講じました。

5. 日本の文化芸術の普及振興を兼ねた国際交流促進事業

交通総合文化展の展示を通して、在日外国人を含め日本の自然や風土の素晴らしさを知ってもらうとともに、日本のさまざまな文化芸術を紹介しました。

II. 収益事業

1. 環境芸術にかかわる各種コンサルティング事業

公共スペースに設置する陶板レリーフ、ステンドグラス、あるいはデジタルアートなどのパブリックアート作品の制作について、各種のコンサルティングを行い、収入を得ました。

2. 不動産などの賃貸業

当協会が保有している不動産や、工房等（クレーレ熱海ゆがわら工房、信楽工房等）の施設を企業に賃貸し、収入を得ました。